

広報佐野日大

SANONICHIDAI



vol.
231
2022.3.1



TOPICS

- ・【卒業式にあたって】 校長・理事長・学園長 お祝いの言葉
- ・【学校行事】 研修旅行
- ・【サニチフラッシュ】 アジアユースパラ競技大会金メダル！佐野市長を表敬訪問
五十幡亮汰選手報告会・座談会開催

卒業式にあたって



「自主創造」の夢を託して

校長 渡邊 明男

今、本校での3年間の学園生活を終え、新たな世界に飛び立とうとしている卒業生の皆さんの、大きく立派に成長した姿を目のあたりにし、誇らしく、そしてまた清々しい感動で胸がいっぱいになっているところです。

本校の56期生として本日巣立っていく皆さんは、3年前の平成31年4月に本校に入学されました。それは5月1日からの「令和」という新しい時代の幕開けの時であり、同時に皆さん一人ひとりが、自分自身の人生を方向付け、その実現に向け取り組み始めるという大切な時でもありました。

以来、楽しいことも悲しいことも、嬉しいことも辛いことも、たくさんたくさん経験しながら、時には友と励まし合い、時には先生方やご家族の支援を力に変えて、一人ひとりが自身の心と知性に磨きをかけて、かくも立派に成長してきたのです。特にこの2年間は、コロナウイルス感染症によるパンデミックの中での高校生活でしたが、様々な苦難に遭遇しても、若者らしいしなやかさをもって柔軟に対応しつつ、将来の希望進路実現のため粘り強く頑張り抜いてきました。まだこのコロナ禍の出口は見えてはきませんが、これからもその時々の環境に適切に対応しながら、成長し続けることと信じています。

さて、皆さんもご存じの通り、現代は変化が極めて激しい、グローバル化した「知識基盤社会」だと言われています。日本で、そして世界中で、私たちが今まで経験したことのないような出来事が次々と起こっており、その傾向は今後益々加速していくことでしょう。このような社会だからこそ、皆さんが身につけてきた「自主創造」の精神が一層輝きを増して、人生を実りあるものへと導いてくれるのです。

3年間この佐野日大で学んできた皆さんと、私たちが共通する日本大学のDNAを再度ここに確認して、本日この学び舎をあとにするにあたっての臚の言葉とします。それは、松下村塾に学んだ、当時14歳であった日本大学の学祖山田顕義先生に、吉田松陰先生が大きな期待と共に与えられた扇面の漢詩です。

立 志 尚 特 異
（立志は特異を尚ぶ）
俗 流 與 議 難
（俗流は與に議し難し）
不 思 身 後 業
（身後の業を思はず）
且 偷 目 前 安
（且つ目前の安きを偷む）
百 年 一 瞬 耳
（百年は一瞬のみ）
君 子 勿 素 餐
（君子は素餐する勿れ）

すなわち、社会に貢献するために人とは異なる大きな志を持つことの大切さと、時間を大切にし、有意義な人生を送る覚悟を迫るものであります。

皆さんも日大人の一人として、この思いを胸に、充実した人生の歩みを進めていってください。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。春秋に富む皆さんの、大いなるご活躍を心からお祈りしています。



言葉で支え合い、 複雑さに立ち向かう力を

学園長 浦田 奨

新型コロナウイルスの感染拡大は世界中の人々の生活を一変させ、社会経済に甚大な影響を与えました。しかし一方でテレワークの普及や学校教育のICT化が急速に進むなど、時間的・空間的な制約を超えたつながりを生み、人々の意識や社会のありかたを再考する契機となりました。

さらにその流れは社会のデジタル化を加速させ、ICTのみならずロボティクスやAI（人工知能）、IoT（モノのインターネット）の先端技術を活用することで、現在の超少子高齢・人口減少社会への対応が次々と実用化されています。介護者の負担を軽減しながら受ける側の自立支援にも貢献する介護ロボットの導入、スマート農業の普及、自動運転技術の開発など、雇用が機械に奪われていく可能性も含めて社会経済の劇的な変化が予測されます。また地球規模でも、米中対立を中心とした国際情勢の基軸が気候変動対策へ移行し、石油ではなくEVや燃料電池、半導体などの技術開発にどの国が勝利するのかが、世界秩序は大きく変化し

ていくと言われます。多くの状況が複雑に絡み合う中、あらゆる課題の解決が可能とされるソサエティ5.0（超スマート社会）へ向けて世界は走り続けているのです。

このように現代社会は複雑さを極め、正しい判断を得ることがますます難しくなっています。そこで大切になるのは、拡散する膨大な情報から自分に必要なものを取捨選択し、自分の頭でしっかり考える姿勢です。そしてそのためには周囲の人たちと互いに心を支え合い、次々に求められる決断に対処する勇気を持つことが大切です。

皆さんは、学園で過ごしたこの数年間で、保護者や多くの先生方、友人たちとかけがえのない時間を過ごしてきました。そしてその方たちから多くの言葉ももらい、その言葉によって生かされてきました。温かい励ましは人に挑戦する勇気を与え、ほんのわずかな気遣いの言葉が、絶望の淵にある人の人生を救うこともあります。入学からこれまでの日々を思い返し、自分を支えてくれた人たちの言葉を思い返してみてください。言葉とともに、多くの笑顔がそこにあるのではないのでしょうか。今、大きく成長した皆さんは、その人たちが与えてくれたものをしっかりと返していく時を迎えています。

学園を巣立つ皆さんが、複雑さを極める時代に力強く立ち向かい、温かい言葉で多くの人と支え合いながら、すばらしい人生の時間を積み重ねていかれることを祈念して、はなむけの言葉といたします。



不確実な時代を、
たくましくしなやかに生きる

理事長 長谷川 弘

突然の全国一斉休校が私たちを驚かせてから2年、新型コロナウイルスの感染拡大は、社会経済のみならず学校教育にも大きな影響を与えました。学園はその間、「パンデミックは危機管理である」と認識し、「学生・生徒と教職員の生命と健康を守る」、また「教育を確実に学生・生徒に届け続ける」ことを最優先課題に、最大のダメージも想定される中で最小限のダメージにとどめてきたものと思っています。

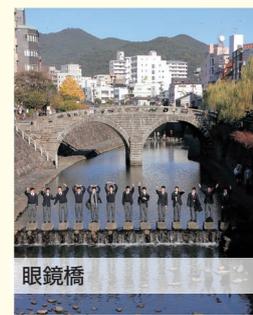
さて、デジタルテクノロジーが目覚ましい進化を遂げる現在、社会のさまざまな分野でデジタルトランスフォーメーション（DX）が推進されています。それは教育の現場も例外ではなく、変革の波が押し寄せています。また近年、海外子女の半数以上が日本人学校ではなく現地校やインターナショナルスクールに通学し、保護者が望む教育でも「日本と同等の教育」は2位に後退、「在外ならではの多様な経験」がトップとなりました（海外子女教育振興財団実施のアンケートより）。このデジタルテクノロジーによるDX化と教育の多様性への強い志向は、学校へのニーズが根本的

に変化したことを示唆しているように思えます。既存の価値観が覆るゲームチェンジが、学校教育でもまさに起ころうとしているのです。

私たち私学は、この時代の大きな流れに乗り遅れるわけにはいきません。変化に対応する経営戦略と、それを実行できる体制、組織の再構築が不可欠です。たとえば、従来のトップダウン型組織に多い「野球型」ではなく、教職員一人ひとりの自律性を重んじ、主体的な行動を促進する「サッカー型」によるマネジメントを重視していくなど、変化に機敏に対応する方策が求められます。

学生・生徒の皆さん、このような変化が激しく予測不可能な時代にあっては、その不確実性にどう立ち向かうかが大きなテーマとなっています。予測の範囲を超えた事象への対処には、データサイエンスの知識もあわせて、知性を高め多角的にものを見る力が必要です。そして優れたイノベーションは、さまざまなバックグラウンドを持つ人たちが意見をぶつけあうことで、はじめて生まれるものなのです。学園の各学校は、探究的な学習・研究を通じ、正解のない問題の解決策を考え抜くための「たくましい知性」と、ダイバーシティの発想に基づいた「しなやかな感性」の涵養に力を注いでいます。この学園で学び、そのような力を身につけた皆さんは、自信をもって広い世界へ泳ぎだしてください。

卒業生の皆さんの幸福な前途を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



眼鏡橋

熊本城



山田顕義先生之像



研修旅行に
行ってきました。
九州方面・山口秋



中華街



ハウステンボス

12月3日（金）～9日（木）にかけて、各コース4泊5日で2年生の研修旅行が実施されました。九州方面へ行き、平和学習や歴史学習を行いました。進学コースは九州方面に加え山口県も訪れ、日本大学の学祖山田顕義先生にゆかりのある場所も訪れました。





マスコットキャラクター決定!
名前は「さにっぴー」



バーレーン2021アジアユースパラ競技大会金メダル! 佐野市長を表敬訪問 (写真1)

12月に行われたバーレーン2021アジアユースパラ競技大会(水泳の部)男子100m背泳ぎで見事金メダルを獲得した大島茄巳琉さん(3年・佐野・南中)が、1月26日(水)に佐野市長を表敬訪問した。また、佐野市スポーツ賞を受賞した。卒業後の大島さんの活躍も大いに期待したい。

剣道部 全国高等学校剣道選抜大会 県予選会優勝 全国大会へ! (写真2)

1月23日(日)、ユウケイ武道館にて令和3年度栃木県高等学校剣道新人大大会兼第31回全国高等学校剣道選抜大会県予選会が開催された。決勝戦では小山高校を相手に3-0で勝負を決め、見事優勝した。なおこれにより全国高等学校剣道選抜大会出場が決定した。全国大会に向け、日々稽古に精進する剣道部に声援を送ろう!

北海道日本ハムファイターズ 五十幡亮汰選手 (平成29年卒業) 報告会・座談会開催 (写真3)

12月23日(木)、北海道日本ハムファイターズ五十幡亮汰選手が来校し、報告会・座談会を開催した。この様子は本校ホームページで紹介している。



HPはこちら

民謡民舞全国大会 優秀賞受賞! (写真4)

12月16日(木)~19日(日)、品川区立総合区民会館にて行われた民謡民舞全国大会(日本民謡協会主催)で、若林友希さん(2年・宇都宮・姿川中)が優秀賞(民謡青年部旗戦)を受賞した。全国大会で選んだ曲は佐野に伝わる「越名舟唄」で、太く澄んだ声で地元の民謡の良さを大いに伝えることができた。

国 税 庁 長 官 表 彰

税の作文や租税教室など、本校の税に対する長年にわたる教育の取り組みが評価され、租税教育推進校として国税庁長官表彰を受けた。

#introSNC 発足! (写真5)

本校の公式TwitterとInstagramの投稿を行うチームが誕生した。その名も「#introSNC」。新しい佐日(SNC)が始まる、佐日を紹介するという思いが込められている。公式Twitter・Instagramをぜひチェックしてみよう!(写真は1月に受験生に向けてのメッセージを掲載したものです。)



Twitter



Instagram

北京月壇中学とのオンライン交流 (写真6)

11月30日(火)、交流校である北京月壇中学とオンライン交流を中等教育学校と合同で行った。昨年度同様、オンラインで友好を深めることができた。本校からは、日本の文化について紹介し、月壇中からは流暢な日本語で故宮の建物、北京料理、京劇など中国の文化について紹介があった。

教育講演会 脚本家八津弘幸さん (平成2年卒業) (写真7)

10月22日(金)、プラザ40で教育講演会が行われた。人気ドラマ『半沢直樹』『おちょやん』の脚本を手掛けた本校卒業生の八津弘幸さんが講演を行い、進路を模索する生徒たちにエールを送った。苦勞を重ね成功した八津さんの言葉に生徒たちは感銘を受けた様子だった。

日本大学 文芸コンクール

日本大学付属高等学校等第38回文芸コンクールが開催された。受賞生徒は次の通り。

- 読書感想文(特選) 若旅 彩恵(2年・大泉・北中)
- 読書感想文(佳作) 小澤 茉莉(2年・幸手・東中)
- 詩(佳作) 市川 莉帆(2年・佐野・赤見中)
- 短歌(佳作) 福田 陽彩(1年・足利・毛野中)
- 俳句(佳作) 土屋 蓮花(2年・古河・古河第一中)
- 齋藤 泰樹(1年・結城・結城南中)

編集 後記

本号も、プロ野球選手の五十幡亮汰選手や脚本家の八津弘幸さんといった著名な卒業生、そして多くの生徒たちの活躍が誌面を賑わせてくれました。卒業生のみならず、この学び舎で過ごした3年間に誇りと自信を持ち、ぜひ自らの人生を力強く歩んで行ってください。"Congratulations on your graduation. Best wishes for your next adventure. Please come back anytime."(平野記)

広報佐野日大 VOL.231

佐野日本大学高等学校 栃木県佐野市石塚町2555
☎0283-25-0111(代) <https://high.sano-nichidai.jp/>